

(6) 医療技術学部(臨床検査学科)

医療技術学部臨床検査学科は、2019年4月、北海道・東北で初の臨床検査技師を養成する4年制私立大学として誕生し、開設2年目を迎えた。医療現場は高度化・複雑化してきており、幅広い知識とすぐれた技術を備えた人材が必要とされている。精確な検査データを測定し迅速に提供する臨床検査技師は、チーム医療の一員として重要な存在であり、知識・技能の修得のみにとどまらず、患者や他職種と円滑に関係性を築けるコミュニケーション能力や、医療の進歩、医療形態の変化に柔軟に対応していける自己研鑽の能力や意欲を備えた、高度な専門職業人育成をめざしている。

医療技術学部 教育理念

本学の教育理念を基本として、最先端の科学的知識を基盤とした臨床検査の専門職の養成を図る教育を推進する。科学的専門知識と技術の開発・教授に留まらず、「考える力」を駆使する課題解決能力に秀でた人材の養成と、また、保健・医療・福祉の連携・統合を意識し、広い視野を備えた専門職業人の養成により、地域・国際社会ならびに人類の健康と幸福に貢献することを医療技術学部臨床検査学科の教育理念とする。

医療の高度化、チーム医療の推進、検査機器の小型化などの技術進歩に伴い、臨床検査技師という職種においても高度専門化が進み、また知識・技能だけでなく、他職種や患者との円滑なコミュニケーションができる新しい臨床検査技師が求められている。

本学では、すでに薬剤師、歯科医師、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士など、さまざまな医療の担い手を育成しており、これからのさまざまな場での多職種連携を強化するべく、臨床検査技師の養成を行う。

臨床検査は、検査データという客観的な情報を提供し、科学的根拠に基づいた医療を行うために不可欠であり、そうした情報を正確に取得するための精度管理能力、高度化する機器や技術を理解し高めていく自己研鑽能力、課題を見つけ自分で解決していける能力を身につけた、高度専門職業人としての臨床検査技師を養成する。

医療技術学部 教育目的

医療技術学部臨床検査学科の教育理念に沿って、最先端の科学的知識を基盤とする専門知識と技術に裏打ちされた課題解決能力を身につけ、確固たる倫理観と専門性に基づいて保健・医療・福祉の分野で社会に貢献できる専門職業人としての臨床検査技師の養成を本学科の教育目的とする。

医療技術学部 教育目標

医療技術学部臨床検査学科の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。

1. 医療人としての豊かな人間性と高い倫理観の涵養
2. 高い専門知識と技術の修得
3. 生涯にわたり自ら研鑽し向上する意欲の涵養
4. チーム医療の一員として協調性を持って職責を果たす能力の修得
5. 問題提起と解決能力の涵養

【学科の特色】

①先進医療知識と技術による教育

基礎的な知識・技能はもとより、実際の医療現場で用いられている検査技術および先進医療を見据えた新たな検査技術に対応する知識・技能が必要であり、高精度な超音波画像解析装置や自動分析機器、がん細胞などの形態学的判定能力を効率的に養うためのバーチャルスライドシステム、ゲノム医療や個別化医療、再生医療等を見据えた遺伝子解析装置、質量分析装置、細胞培養設備等を整備している。

学内実習、卒業研究、アドバンス科目でそれら機器を積極的に学生に使用させることにより、臨床検査に対する科学的視点と問題解決能力を実践的に教授する。

②チーム医療、在宅医療を推進する実践教育

医療の地域格差や高齢化によって、地域医療や在宅医療の重要性は今後さらに増加すると考えられ、本学部では、在宅医療の基本的理解と臨床検査の必要性について、在宅医療を専門とする看護福祉学部教員との連携図り、実践的に教授する。また、チーム医療の重要性を早期に理解し、自らの専門性と他の医療職種の役割を熟知し、協調してチーム医療を展開できる臨床検査技師を育成するため、1年次には「多職種連携(多職種連携入門)」、2～3年次には「保健医療福祉演習」「チーム医療・コミュニケーション演習」「医療マネジメント演習」を配置し、チーム医療の中心である患者の理解とコミュニケーションの方法、患者と接する際のリスクマネジメントに関する知識と実技を修得させる。

③患者への思いやりと確かな倫理観を培う教育

患者の身体的・心理的状态を理解し良好な関係性を築けるコミュニケーション能力や倫理観を持った臨床検査技師を育成するため、対人援助や傾聴といった心理学に基づいた知識を教授する。認知症、身体障害、発達障害や精神障害を持つ患者への理解を模擬体験によって促し、臨床検査技師教育では珍しい福祉施設での体験実習を取り入れ、患者の気持ちに共感できる豊かな人間性を培う教育を実践する。

④新たな分野で臨床検査技師の能力を活かす教育

大学での4年制教育により、研究・教育能力を併せ持つ高度専門職としての臨床検査技師を育成することができ、臨床検査技師の国家試験受験資格のほか、食品衛生管理者・食品衛生監視員の任用資格、健康食品管理士の受験資格などを得ることができる。病院の検査室だけではなく、試薬・製薬メーカー、検査センター、研究職や行政機関への就職など、進路の選択肢は広がっている。

<p>学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)</p> <p>医療技術学部臨床検査学科の教育目標に基づき、卒業のために以下の要件を満たすことが求められる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の尊重を基盤とした豊かな人間性、幅広い教養、高い倫理観を身につけている。 2. 臨床検査に必要な知識と技術を修得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。 3. 保健・医療・福祉の各分野の役割を理解し、チーム医療の一員としての自覚とそれを実践するための専門性と協調性を身につけている。 4. 臨床検査のスペシャリストとして、進歩や変化に常に関心を持ち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけている。 5. 多様な文化や価値観を尊重し、地域的・国際的な視野で活躍できる能力を身につけている。 6. 臨床検査学領域における様々な問題や研究課題に対し、解決に向けた情報の適切な分析、科学的思考と的確な判断ができる能力を身につけている。
<p>教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)</p> <p>医療技術学部臨床検査学科の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1年次には、医療人としての豊かな人間性と幅広い教養を養う全学教育科目、さらに、チーム医療に求められるコミュニケーション能力を養い、多職種連携に関する理解を深めることを目的とした全学部学生が合同でおこなう科目を配当する。また、人体の構造や機能を学ぶ基礎医学科目や早期に臨床検査分野に対する動機付けを図るための臨床検査学の基礎に関する専門科目を配当する。 2. 2年次には、臨床検査に対する理解を深め、専門知識を豊富にすることを目的とした臨床検査学の講義および実習科目を配当する。 3. 3年次には、臨床検査技師に必要な技術を修得することを目的とした臨床検査学および関連する実習科目、さらに医療現場での臨床検査に関する知識を深め、臨床検査技師としての自覚を培うことを目的とした臨床実習を配当する。また、臨床の現場で実際に臨床検査技師が関わるチーム医療や在宅医療の理解、患者への接遇、リスクマネジメントの重要性を学ぶことを目的とした科目を配当する。 4. 4年次には、研究を通して、科学的な思考による問題解決能力やプレゼンテーション能力を養うことを目的とした卒業研究を配当する。さらに、創造性、思考力、生涯にわたり自己研鑽する意欲を備え、指導的役割や教育・研究を担う臨床検査技師としての能力、同時に、先進・高度化する医療に対応できる能力を養うことを目的とした科目を配当する。 5. 国際的な視野で活躍できる力の育成に向けて、1年次～4年次にわたって英語の科目、そして1年次に初修外国語(ドイツ語、中国語、ロシア語)を配当し、さらに、英米哲学の問題理解(人間と思想)、グローバルな観点からの自然環境・社会経済の変化と感染症(医療社会史)、欧米の医療保険制度(医療の経済学)などの異文化理解に関する科目を配当する。 6. 学修成果を把握・評価するために、筆記試験、実技試験、ルーブリックを用いたレポート評価などを適宜実施する。
<p>入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)</p> <p>医療技術学部臨床検査学科では、学位授与の方針の要件を修得し、医療社会の要請と期待に応じて地域や人々の健康の向上に貢献できる臨床検査専門職の養成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入学後の修学に必要な基礎学力*を有している人 2. 協調性や基礎的な思考力と表現力を有している人 3. 生命を尊重し、他者を大切に思う心がある人 4. 保健・医療・福祉に関心があり、地域社会ならびに人類の幸福に貢献するという目的意識を持っている人 5. 生涯にわたって学習を継続し、自己を磨く意欲を持っている人 <p>*基礎学力について 医療技術学部臨床検査学科では、入学後、専門科目の基礎として、生体成分の化学的特性やその測定のための化学反応を理解するための化学、検査結果の妥当性を評価するための数学・統計学、生体情報の取得のための音や電気の特性を理解するための物理学、病気による生体成分や生体情報の変化を理解するための生理学・生化学・病理学などの科目があります。すなわち、高校で学習した数学、理科(化学、生物、物理)の知識や考え方を有効に活用することが学修成果を高めることにつながります。 ここに示す「基礎学力を有し」とは、上記科目を高校で履修していることをさします。 ただし、理科3科目全ての履修は限定されるため、少なくとも1科目を履修しており、未履修の科目については合格後に本学が提供する教育プログラムを受講することを推奨します。</p>

1)全学教育科目

全学共通の視点で提供された授業科目であり、教養教育・基礎教育・医療基盤教育の3群からなっている。「導入科目」「教養科目」「外国語科目」「健康・運動科学科目」「情報科学科目」「自然科学科目」「医療基盤科目」で構成され、必修科目17科目、選択科目14科目の合計31科目を配置している。

本学部の教育上の到達目標やディプロマ・ポリシーを踏まえて、多職種連携、チーム医療に必要な医療基盤教育科目、医学・科学の理解に必要な自然科学科目(物理学、化学、生命科学)、情報科学科目、導入科目を必修科目としている。

2)専門基礎科目

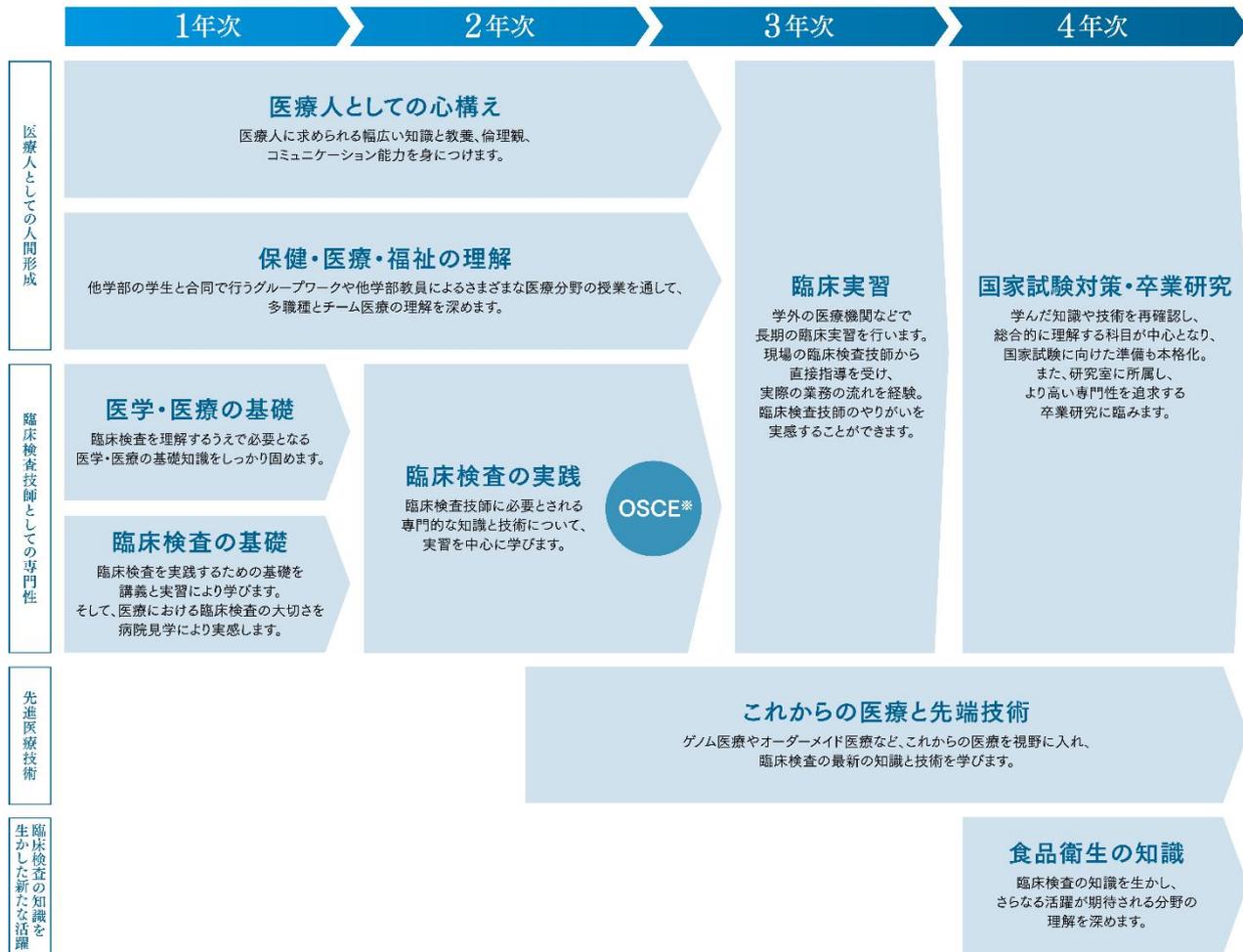
臨床検査技師に求められる知識・技術を修得するための科目であり、必修科目21科目からなる。①人体の構造と機能、②医学検査の基礎とその疾病との関連、③保健医療福祉と医学検査、④医療工学及び情報科学

3)専門科目

臨床検査技師として必要とされる知識と技術の習得を目的とした「臨床病態学」「臨床病理検査学」「遺伝子検査学」「臨床微生物学」「臨床生理学」「臨床検査管理学」「医療安全管理学演習」「臨床実習」などのほか、高度な医療への対応と科学的思考、問題解決能力を養うことを目的とした「卒業研究」で構成される。必修科目は50科目、選択科目は11科目の合計61科目となる。

▶ 臨床検査学科／履修カリキュラム

[4年間の学びの流れ]



※OSCE(Objective Structured Clinical Examination):「オスケー」とは、検査技能や患者さんとの接し方などを評価する実技テストのことです。

